1. 全国通訳案内士

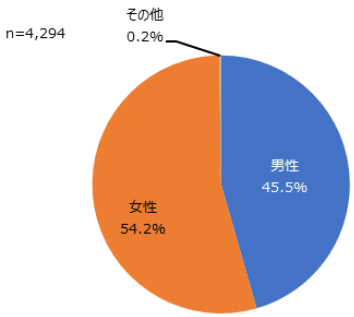
基本項目

- 年　　代：60代以上（60代+70代以上）が半数以上を占め、高齢化状態。
- 居　住 地：南関東一都三県が、全体の半数以上。関東、近畿の大都市圏に偏在。
- 活動地域：関東、近畿が多い。
- 登録言語：英語が約8割、他言語に比べて圧倒的に多く、大きな偏り。

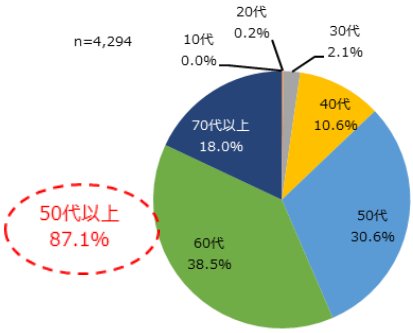
○性別
「男性」が45.5%、「女性」が54.2%、「その他」が0.2%。

○年代
「60代」が38.5%で最も高く、続いて「50代」が30.6%、「70代以上」が18.0%。
「60代以上（60代+70代以上）」は、56.5%と半数以上。

全国通訳案内士_性別(単一回答)



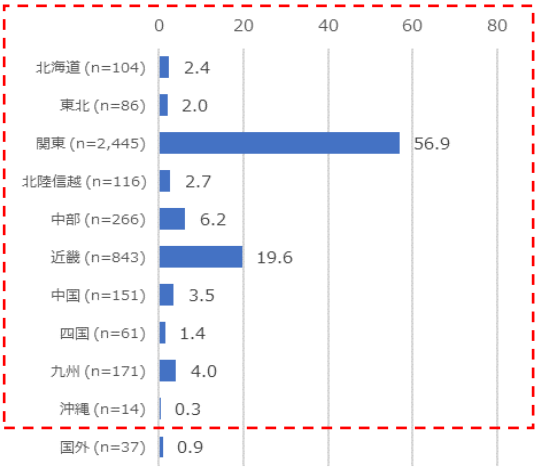
全国通訳案内士_年代(単一回答)



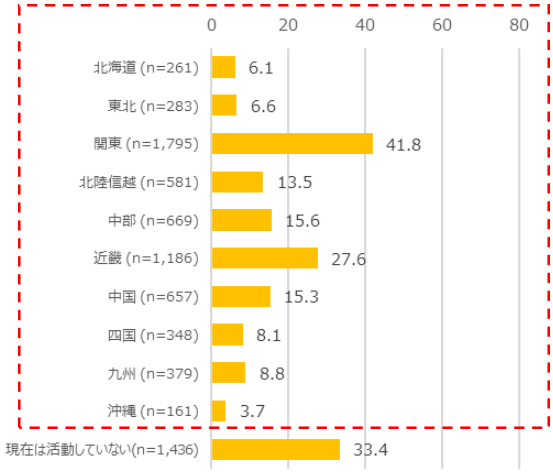
○居住地
TOP５が「東京都」（28.4%）、「神奈川県」（13.0%）、「大阪府」（7.2%）、「千葉県」（7.0%）、「埼玉県」（5.5%）
最も低いのが「秋田県」、「山形県」、「鳥取県」、「高知県」、「佐賀県」、「宮崎県」で、それぞれ0.2%。

○活動地域　（複数回答）
「現在は活動していない」を除くと、「関東」が41.8%で最も高く、次いで「近畿」が27.6%

全国通訳案内士_居住地（地域別）（単一回答）



全国通訳案内士_活動地域（複数回答）



○登録言語　（複数回答）
「英語」が最も高く79.9%、次いで「中国語」が9.0%。
最も低いのは「タイ語」の0.2%で、次いで「ポルトガル語」と「ロシア語」がそれぞれ0.8%

通訳案内士の就業実態

- 未就業は半数超え、専業者は15.6%

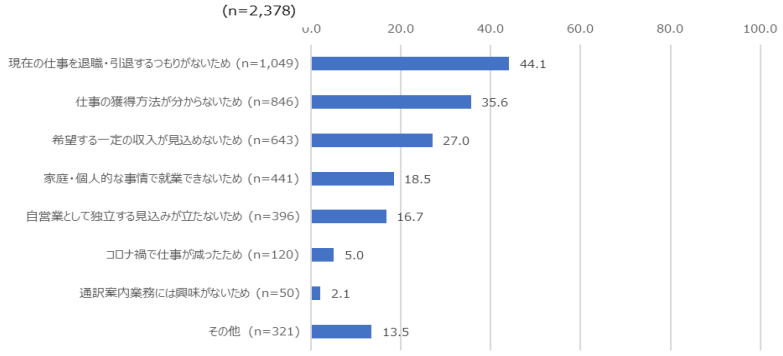
○資格の活用状況
「未就業」が55.4%と最も高く、次いで「兼業」が29.0%、「専業」は15.6%

○今後の就業について
「本業に加えて、通訳案内士を副業としたい」が27.8%、次いで「特に具体的な計画は立てていない」が23.5%
「できれば通訳案内士を専業としたい」は15.9%、「通訳案内士を専業とする」は15.2%、合計すると31.1%が専業を希望

未就業者・兼業者の実態

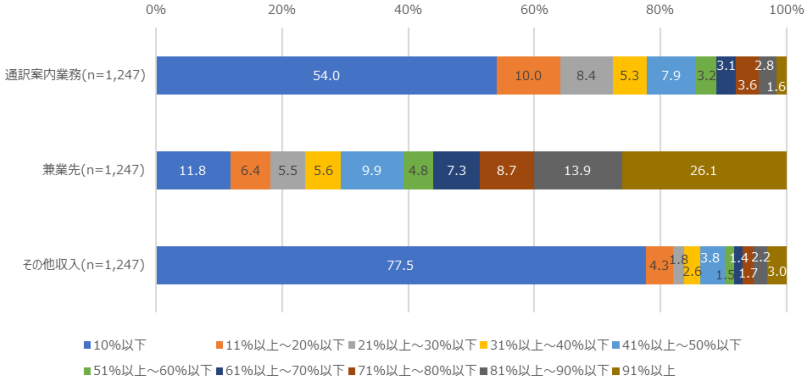
- 未就業の理由は、「現在の仕事を退職・引退するつもりがないため」「仕事の獲得方法が分からないため」「希望する一定の収入が見込めないため」など、他の仕事に就いている人が多い。
- 今後の就業意思は、未就業者の約半数が「就業したい」。
- 兼業者の通訳案内士としての収入割合は、全国、地域ともに「10%以下」が最多。

○未就業の理由　（複数回答）
「現在の仕事を退職・引退するつもりがないため」が44.1%で最も高く、続いて「仕事の獲得方法が分からないため」が35.6%、「希望する一定の収入が見込めないため」が27.0%。



○今後の就業意思
未就業者は、「どちらともいえない」が46.2%で最も高く、次いで「就業したい」が45.5%となっている。「就業したいと思わない」は最も低く8.4%。

○兼業先の収入の割合
兼業者の〈通訳案内士としての収入の割合〉のTop3は、「10%以下」（54.0%）、「11%以上～20%以下」（10.0%）、「21%以上～30%以下」（8.4%）となっている。
〈兼業先の収入の割合〉のTOP3は、「91%以上」（26.1%）、「81%以上～90%以下」（13.9%）、「10%以下」（11.8%）

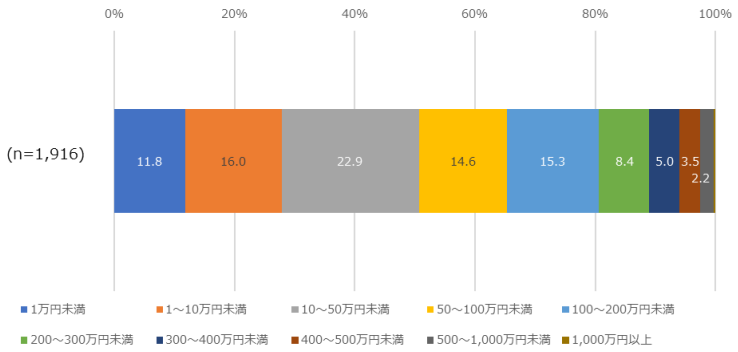


通訳案内士の稼働実態

- 2023年の通訳案内士としての見込み年収が400万円以上ある人は、全体の6.0%。
- 資格取得後、就業経験がない人は43.2%。従事年数で最も多いのが「5～10年未満」13.9%。資格取得年2013年～2018年の合格者が多く出た期間とも重なる。

○2023年1月～12月の見込み年収

2023年1月～12月の見込み年収は、「10～50万円未満」が22.9%で最も高く、次いで「1～10万円未満」が16.0%。上位3区分の見込み年収は、「1,000万円以上」（0.3%）、「500～1,000万円未満」（2.2%）、「400～500万円未満」（3.5%）。

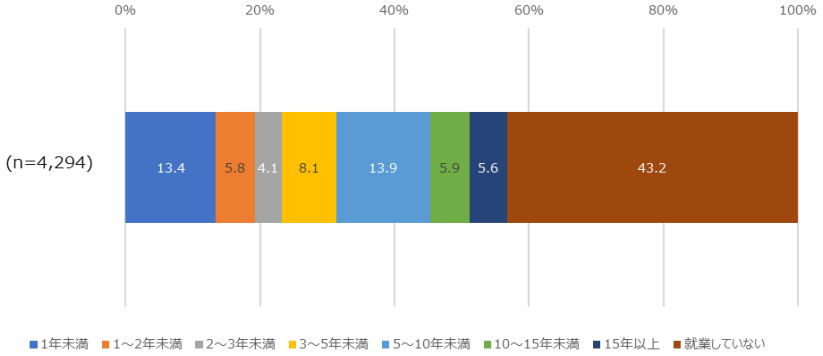


○１日１案件あたりのおよその平均報酬

全国通訳案内士の１日１案件あたりの平均報酬は、「20,000～30,000円未満」が35.5%で最も高く、続いて「30,000～50,000円未満」が24.6%、「15,000～20,000円未満」が14.6%。

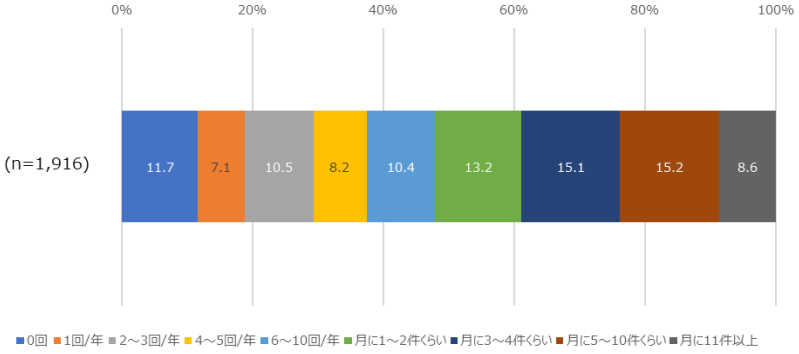
○通訳案内士の実務従事年数

「就業していない」が43.2%で最も高く、「就業していない」を除くと、「5～10年未満」が13.9%と最も高く、次いで「1年未満」が13.4%となっている。一方、最も低いのは「2～3年未満」で4.1%であった。



○通訳案内の実務従事頻度（直近１年間のペース）

全国通訳案内士の実務従事頻度（直近１年間のペース）は、「月に5～10件くらい」が15.2%と最も高く、続いて「月に3～4件くらい」が15.1%、「月に1～2件くらい」が13.2%となっている。

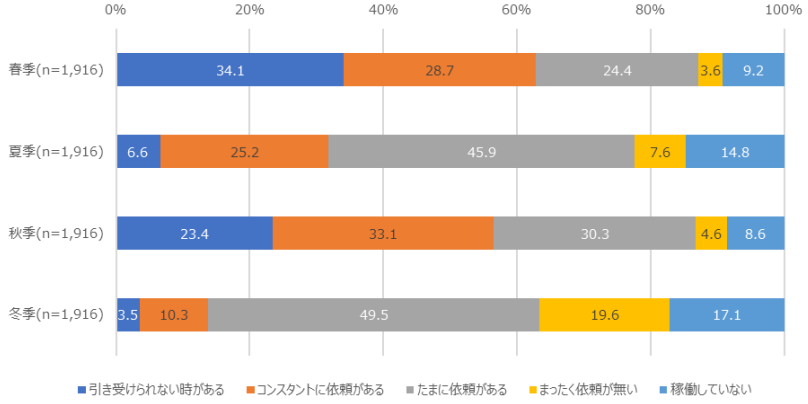


通訳案内士の稼働実態

- 全国通訳案内士の案内業務は春、秋に多い。特に春は「引き受けられない時がある」が最も多い。一方。夏と冬は「たまに依頼がある」が最も多く、季節によって仕事量の偏りが見て取れる。
- 案内業務内容のTop3は「施設やスポット内でのガイド」、「富裕層のご旅行ガイド」、「団体ツアーへの同行」。全国通訳案内士は、「2泊以上の長期間のガイド（スルーガイド）」が地域通訳案内士に比べて多い。
- 案内業務の依頼は、「旅行会社からの依頼・紹介」が最も多い。

○案内業務の機会が多い時期

〈春季（3～5月）〉は、「引き受けられない時がある」が34.1%で最も高く、次いで「コンスタントに依頼がある」が28.7%となっている。
〈夏季（6～8月）〉は、「たまに依頼がある」が45.9%で最も高く、次いで「コンスタントに依頼がある」が25.2%となっている。
〈秋季（9～11月）〉は、「コンスタントに依頼がある」が33.1%で最も高く、次いで「たまに依頼がある」が30.3%となっている。
〈冬季（12～2月）〉は、「たまに依頼がある」が49.5%で最も高く、次いで「まったく依頼が無い」が19.6%となっている。



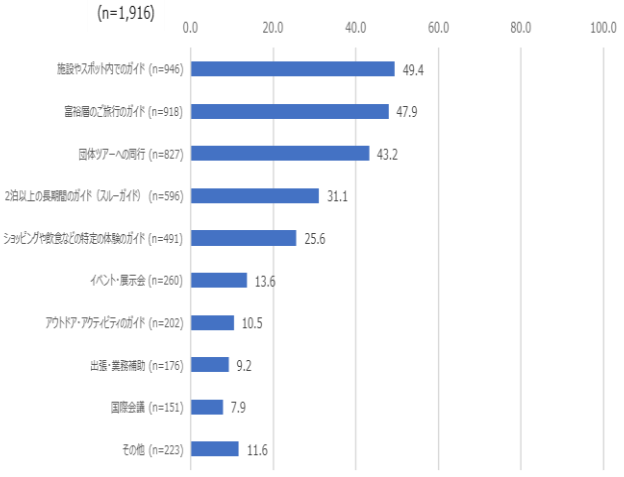
○案内業務の内容として、多いもの

全国通訳案内士の案内業務の内容のTop3は、「施設やスポット内でのガイド」（49.4%）、「富裕層のご旅行ガイド」（47.9%）、「団体ツアーへの同行」（43.2%）となっている。Bottom3は、「国際会議」（7.9%）、「出張・業務補助」（9.2%）、「アウトドア・アクティビティのガイド」（10.5%）となっている。

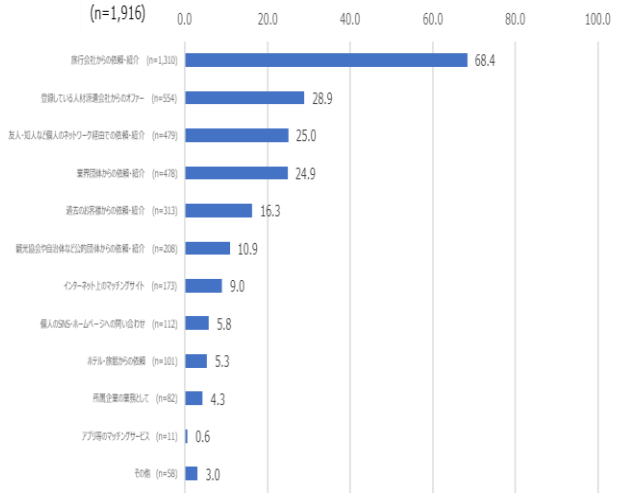
○業務を引き受ける際、どこからの依頼が多い

全国通訳案内士の案内業務の依頼元のTop3は、「旅行会社からの依頼・紹介」（68.4%）、「登録している人材派遣会社からのオファー」（28.9%）、「友人・知人など個人のネットワーク経由での依頼・紹介」（25.0%）となっている。また、「業界団体からの依頼・紹介」は24.9%、「過去のお客様からの依頼・紹介」は16.3%となっている。

案内業務の内容として、多いもの



業務を引き受ける際、どこからの依頼が多い

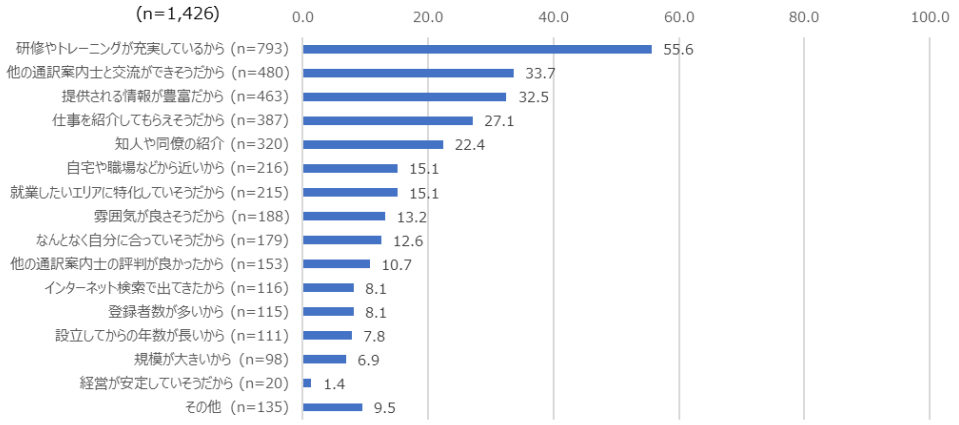


業界団体への所属状況

- 全国通訳案内士の３割超が、通訳ガイドを主な会員とする団体に所属している。

○団体に所属・登録していますか
全国通訳案内士の通訳ガイドを主な会員とする団体への所属は、「所属・登録している」が33.2%、「所属・登録していない」が66.8%であった。

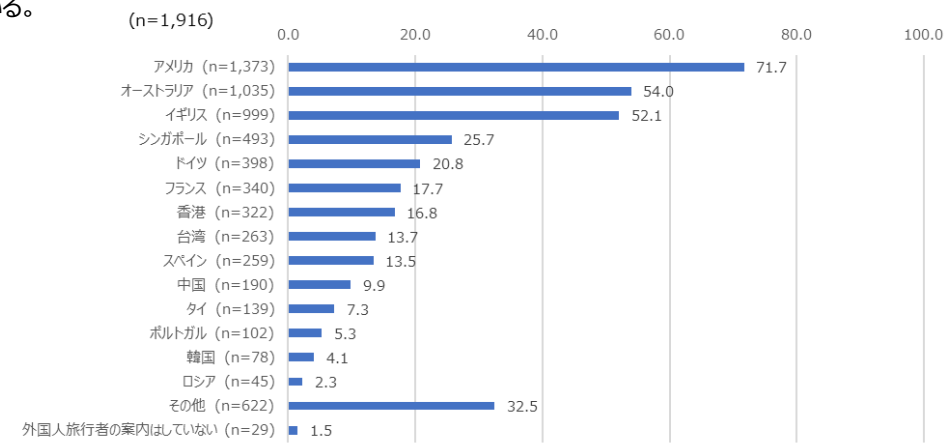
○所属・登録した理由
全国通訳案内士が団体の所属・登録した理由のTop3は、「研修やトレーニングが充実しているから」（55.6%）、「他の通訳案内士と交流ができそうだから」（33.7%）、「提供される情報が豊富だから」（32.5%）となっている。一方、団体の歴史や規模については、「設立してからの年数が長いから」は7.8%、「規模が大きいから」は6.9%と比較的低い。その他「インターネット検索で出てきたから」は8.1%であった。



訪日外国人客の動向

- 通訳案内の対象となる国・地域で最も高いのは「アメリカ」であった。
- 国別の業務の増減で〈とても増加している〉のは「その他」を除くと、「アメリカ」が最も高い。

○訪日外国人旅行者の主な国・地域
全国通訳案内士の通訳案内の対象となる国・地域のTop3は、「アメリカ」（71.7%）、「オーストラリア」（54.0%）、「イギリス」（52.1%）となっている。一方、Bottom3は、「ロシア」（2.3%）、「韓国」（4.1%）、「ポルトガル」（5.3%）となっている。



○対象となる国・地域別の業務の増減
〈とても増加している〉が最も多いのは、「その他」を除いたTop3は「アメリカ」（17.1%）、「オーストラリア」（11.0%）、「フランス」（10.9%）となっている。また、〈増加している〉が最も多いのは「その他」を除いたTop3は「オーストラリア」（40.0%）、「アメリカ」（39.3%）、「シンガポール」（37.3%）となっている。一方、〈減少している〉が最も多いのは、「中国」で45.8%であった。

研修・自己研鑽

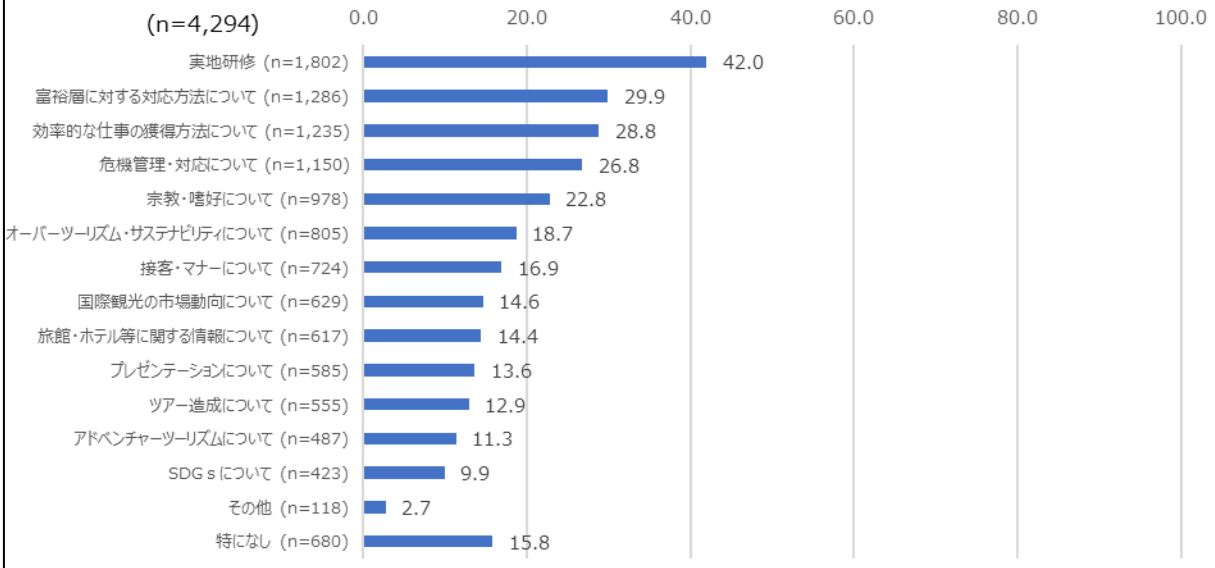
- 直近１年間に受講した研修分野は、「実地研修」が最も高く、次いで、「危機管理・対応について」が高い。
- 今後受講したい研修分野は、「実地研修」が最も高く、次いで「富裕層に対する対応方法について」が高い。
- 取得している他の資格は、「上記の資格は取得していない」を除くと、「旅程管理主任者」が最も高い。

○直近１年間に受講した研修分野

全国通訳案内士が直近１年間に受講した研修分野のTop3は、「研修は受講していない」（50.1%）を除くと、「実地研修」（22.8%）、「危機管理・対応について」（17.7%）、「宗教・嗜好について」（14.0%）となっている。

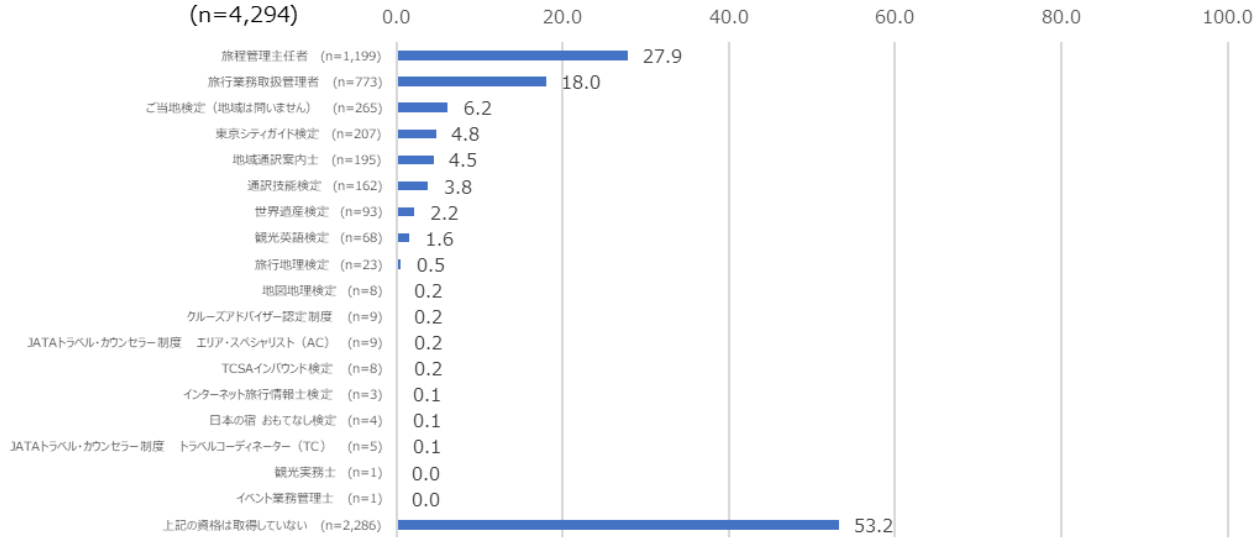
○今後受講したい研修分野

全国通訳案内士が今後受講したい研修分野のTo3は、「実地研修」（42.0%）、「富裕層に対する対応方法について」（29.9%）、「効率的な仕事の獲得方法について」（28.8%）となっている。



○取得している他の資格

全国通訳案内士が取得している他の資格のTop3は、「上記の資格は取得していない」（53.2%）を除くと、「旅程管理主任者」（27.9%）、「旅行業務取扱管理者」（18.0%）、「ご当地検定（地域は問いません）」（6.2%）となっている。

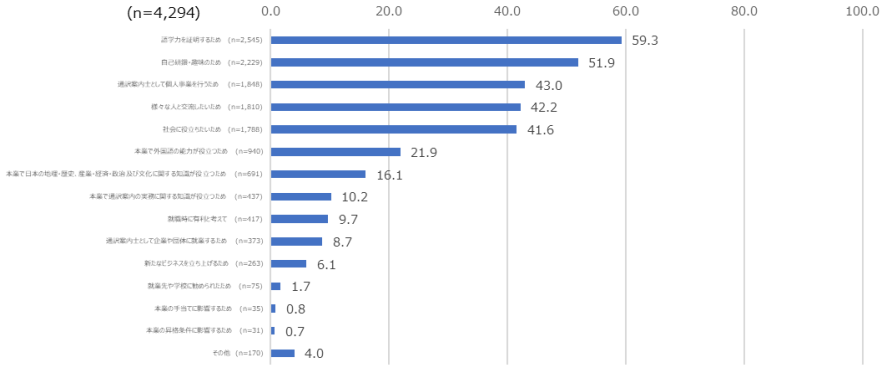


資格取得経緯

- 「通訳案内士として個人事業を行うため」に資格を取得した人の割合は全国が43.0%となっており、就業を視野に入れて受験する人の割合は、半数に満たない。

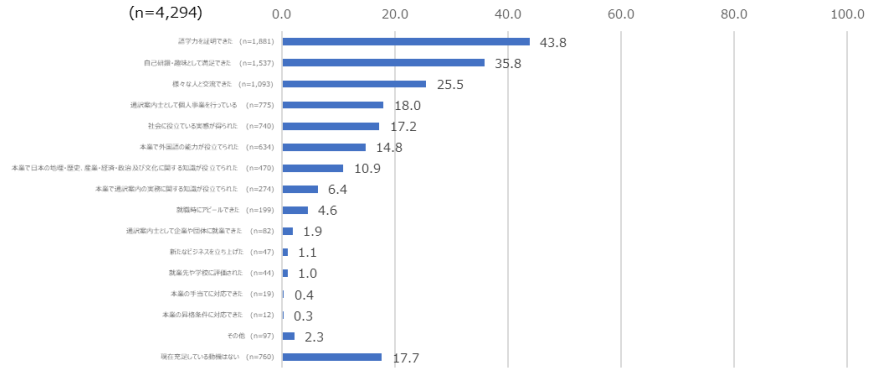
○通訳案内士の資格を取得した動機

全国通訳案内士の資格を取得した動機のTop3は、「語学力を証明するため」（59.3%）、「自己研鑽・趣味のため」（51.9%）、「通訳案内士として個人事業を行うため」（43.0%）となっている。



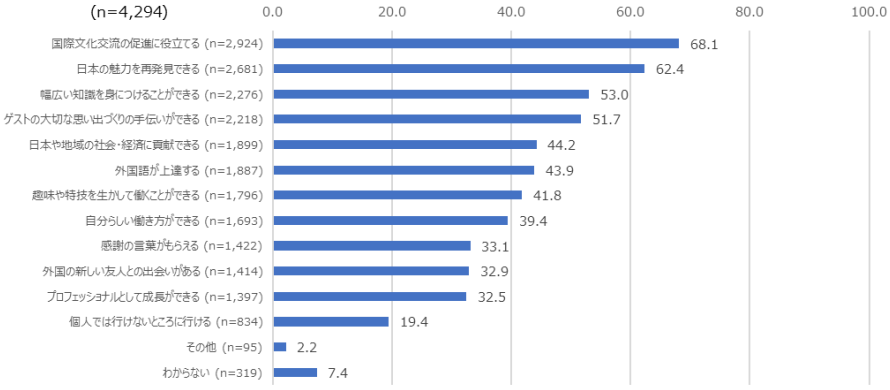
○充足していると思うもの

前問の通訳案内士の資格を取得した動機について、現在充足しているもののTop3は、「語学力を証明できた」（43.8%）、「自己研鑽・趣味として満足できた」（35.8%）、「様々な人と交流できた」（25.5%）となっている。取得の動機Top3に入っている「通訳案内士として個人事業を行っている」は18.0%であった。



○魅力・やりがいを感じること

全国通訳案内士が魅力・やりがいを感じることのTop3は、「国際文化交流の促進に役立てる」（68.1%）、「日本の魅力を再発見できる」（62.4%）、「幅広い知識を身につけることができる」（53.0%）となっている。

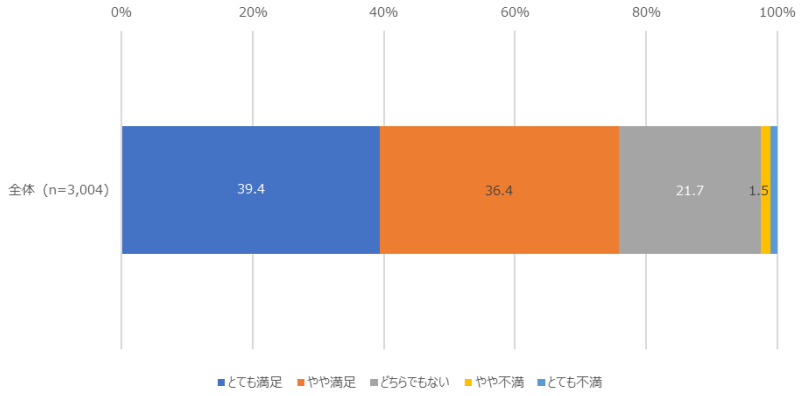


資格更新に関する内容

- 「未定」と「受講しない」を合わせると16.1%。未受講の理由は、「なんとなく後回しにしている」（29.3%）が最も高く、次いで「更新するために受講が必要だと知らなかった」が高い。受講しない人の多くは、明確な意思を持って受講しないわけではない。

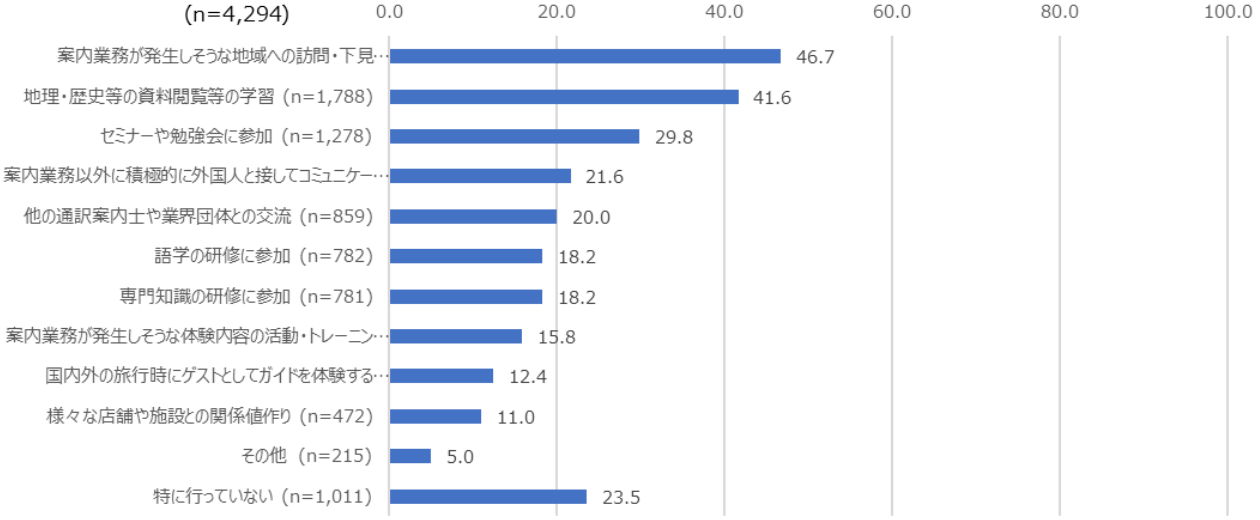
○登録研修機関研修（5年に1度の更新研修）の受講の有無
全国通訳案内士の登録研修機関研修の受講の有無は、「受講した」が70.0%と最も高く、続いて「受講予定」が14.0%、「未定」が11.5%となっている。「受講しない」は4.6%であった。

○受講した登録研修機関研修の満足度
全国通訳案内士の受講した登録研修の満足度は、「とても満足」が39.4%と最も高く、次いで「やや満足」が36.4%となっており、合計すると「満足（とても満足＋やや満足）」は75.8%を占める。一方、「とても不満」1.0%、「やや不満」は1.5%となっており、合計すると「不満は（とても不満＋やや不満）」は2.5%となっている。



○未受講の理由は何ですか
全国通訳案内士の登録研修機関研修の未受講の理由Top3は、「なんとなく後回しに「している」（29.3%）、「更新するために受講が必要だと知らなかった」（22.9%）、「時間的な負担が大きい」（21.6%）となっている。

○更新研修以外に案内業務のスキルアップにつながる取組みをされている
全国通訳案内の案内業務のスキルアップにつながる取組みのTop3は、「案内業務が発生しそうな地域への訪問・下見」（46.7%）、「地理・歴史等の資料閲覧等の学習」（41.6%）、「セミナーや勉強会に参加」（29.8%）となっている。

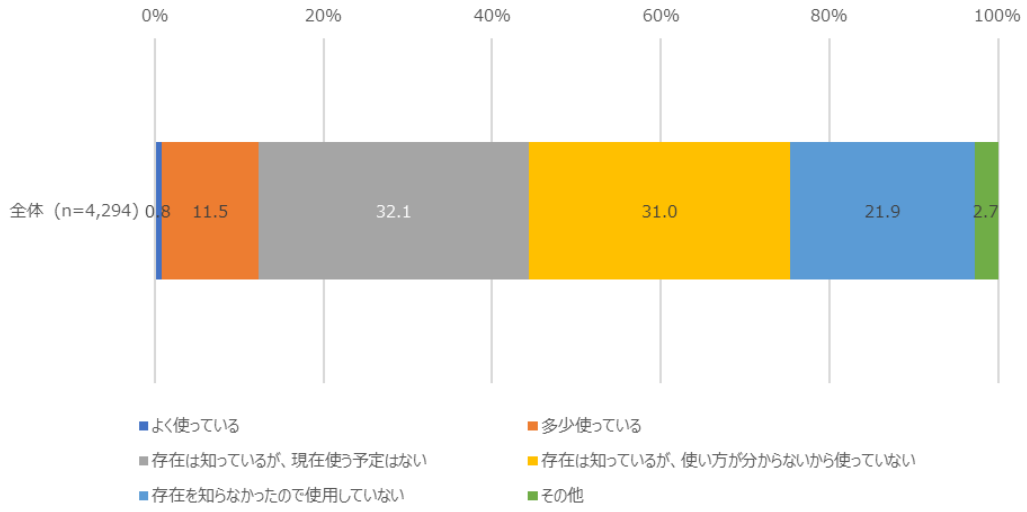


「通訳案内士登録情報検索サービス」の利用状況

- 全国通訳案内士の「通訳案内士登録情報検索サービス」の利用状況は、「使っている（よく使っている＋多少使っている）」が12.3%で、1割超であった。
- 使わない理由は、「登録してもオファーが来なそう」「登録や利用がめんどくさそう」が多い。

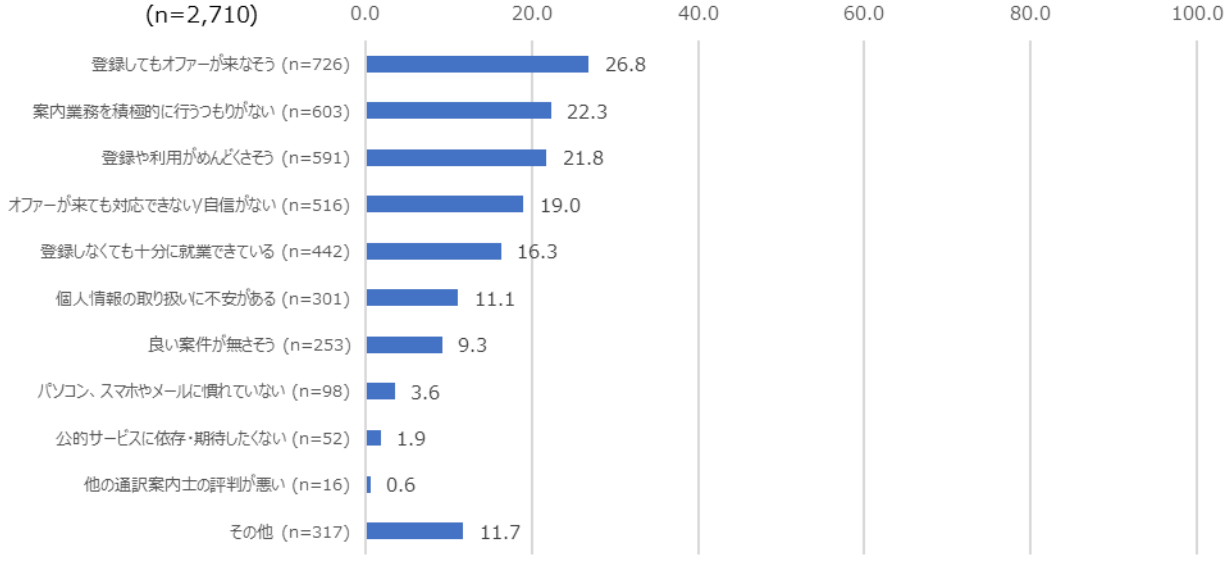
○「通訳案内士登録情報検索サービス」の利用状況

全国通訳案内士の「通訳案内士登録情報検索サービス」の利用状況は、「存在は知っているが、現在使う予定はない」が32.1%と最も多い、続いて「存在は知っているが、使い方が分からないから使っていない」が31.0%、「存在を知らなかったので使用していない」が21.9%となっている。一方、「よく使っている」は0.8%、「多少使っている」は11.5%で、合計すると「使っている（よく使っている＋多少使っている）」は12.3%となる。



○「通訳案内士登録情報検索サービス」を使用しない理由

全国通訳案内士の「通訳案内士登録情報検索サービス」を使用しない理由のTop3は、「登録してもオファーが来なそう」（26.8%）、「案内業務を積極的に行うつもりがない」（22.3%）、「登録や利用がめんどくさそう」（21.8%）となっている。



1. 地域通訳案内士

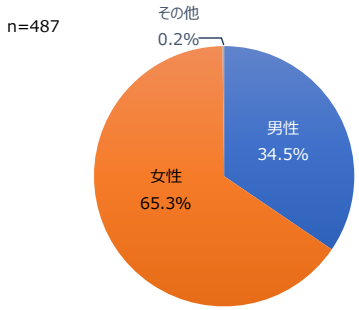
基本項目

- 年　　代：「50代」が31.8%で最も高く、全国通訳案内士と比べて、やや低い年齢層が登録している。
- 居　住 地：首都圏以外の一部の地域（「広島県」、「沖縄県」、「福島県」、「鹿児島県」）に登録者が比較的多い。
- 活動地域：中国、関東、九州地域が多い。
- 登録言語：英語が71.5%と最も多く、次いで「中国語」が20.7%となっている。

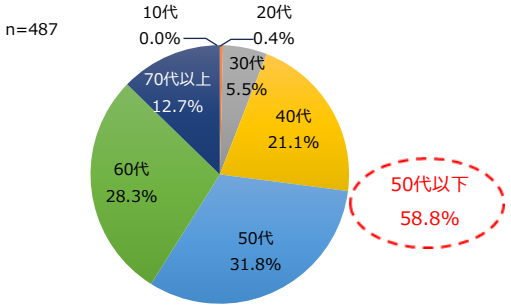
○性別
「男性」が34.5%、「女性」が65.3%、「その他」が0.2%。

○年代
「50代」が31.8%で最も高く、次いで「60代」が28.6%、「40代」が21.1%。
「60代以上（60代+70代以上）」は、56.5%と半数以上。

地域通訳案内士_性別（単一回答）



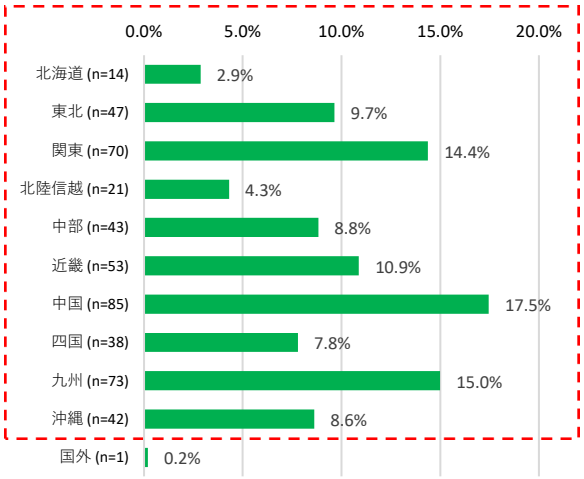
地域通訳案内士_年代（単一回答）



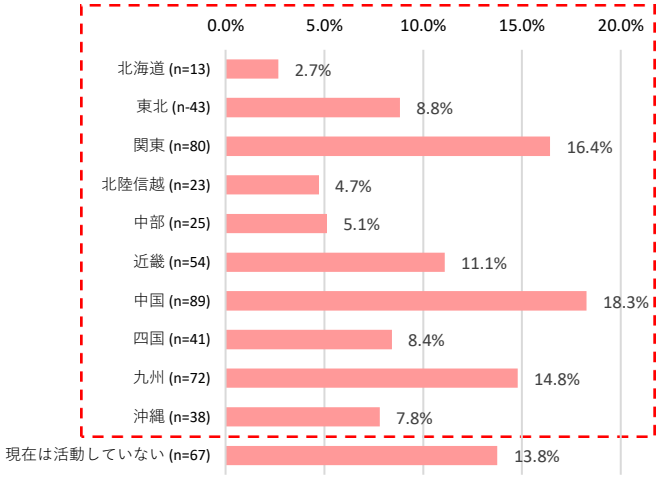
○居住地
TOP５が「広島県」（11.3%）、「沖縄県」（8.6%）、「福島県」（8.4%）、「東京都」（7.2%）、「鹿児島県」（5.7%）。
最も低いのが「岩手県」、「秋田県」、「群馬県」、「三重県」、「愛媛県」に加えて「国外」で、それぞれ0.2%。
回答をいただけなかった県が「青森県」、「福井県」、「岡山県」、「徳島県」、「佐賀県」であった。

○活動地域　（複数回答）
「中国」が18.3%で最も高く、次いで「関東」の16.4%、「九州」の14.8%となる。

地域通訳案内士_居住地（地域別）（単一回答）



地域通訳案内士_活動地域（複数回答）



○登録言語　（複数回答）
「英語」が最も高く71.5%、次いで「中国語」が20.7%。
低いのは「ドイツ語」、「イタリア語」、「ポルトガル語」で、それぞれ0%であった。

通訳案内士の就業実態

- 未就業は半数超え、専業者は7.6%

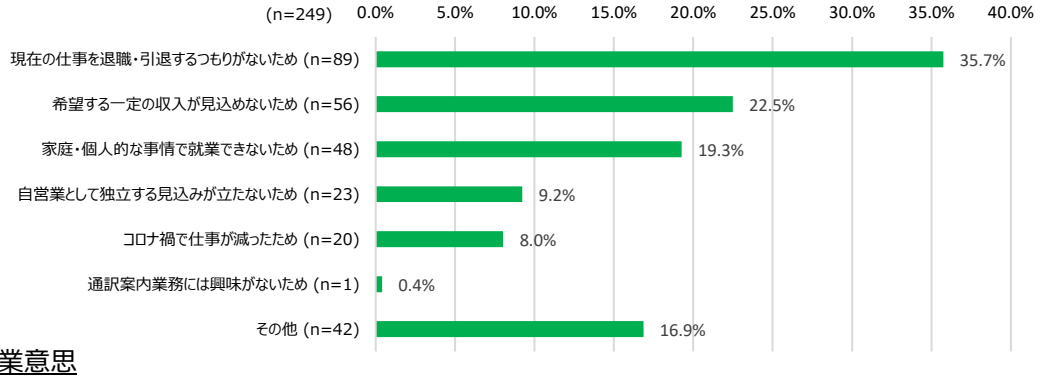
○資格の活用状況
「未就業」が51.1%と最も高く、次いで「兼業」が41.3%、「専業」は7.6%

○今後の就業について
「本業に加えて、通訳案内士を副業としたい」が29.8%、次いで「本業の付加価値として通訳案内士の資格を活用していきたい」が24.2%。「できれば通訳案内士を専業としたい」は17.2%、「通訳案内士を専業とする」は6.8%で、合計すると24.0%が専業を希望。

未就業者・兼業者の実態

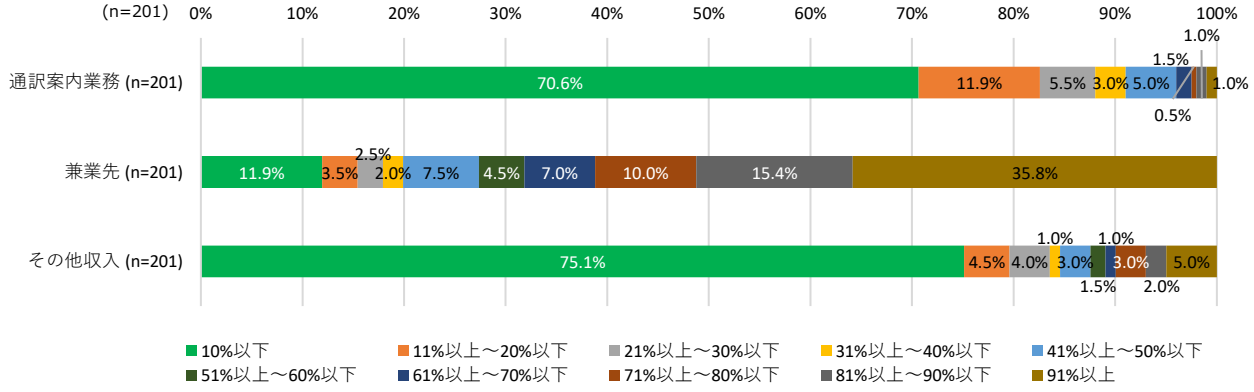
- 未就業の理由は、「仕事の獲得方法が分からないため」が43.0%で最も高く、地域通訳案内士としての仕事の獲得の難しさがうかがえる。
- 今後の就業意思は、未就業者の約半数が「就業したい」。
- 兼業者の通訳案内士としての収入割合は、「10%以下」が最多。

○未就業の理由　(複数回答)
「仕事の獲得方法が分からないため」が43.0%で最も高く、続いて「現在の仕事を退職・引退するつもりがないため」が35.7%、「希望する一定の収入が見込めないため」が22.5%。



○今後の就業意思
未就業者は、「就業したい」が50.6%で最も高く、次いで「どちらともいえない」が45.0%となっている。「就業したいと思わない」は最も低く4.4%。

○兼業先の収入の割合
兼業者の〈通訳案内士としての収入の割合〉のTop3は、「10%以下」（70.6%）、「11%以上～20%以下」（11.9%）、「21%以上～30%以下」（5.5%）となっている。
〈兼業先の収入の割合〉のTOP3は、「91%以上」（35.8%）、「81%以上～90%以下」（15.4%）、「10%以下」（11.9%）。

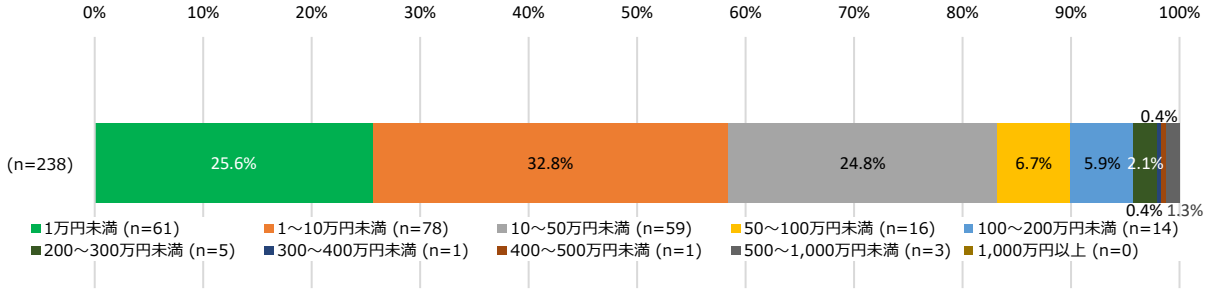


通訳案内士の稼働実態

- 2023年の通訳案内士としての見込み年収が400万円以上ある人は、全体の1.7%。
- 資格取得後、就業経験がない人は36.3%。従事年数で最も多いのが「1年未満」15.2%。

○2023年1月～12月の見込み年収

2023年1月～12月の見込み年収は、「1～10万円未満」が32.8%で最も高く、次いで「1万円未満」が25.6%、「10～50万円未満」が24.8%。
上位3区分の見込み年収は、「1,000万円以上」（0%）、「500～1,000万円未満」（1.3%）、「400～500万円未満」（0.4%）。

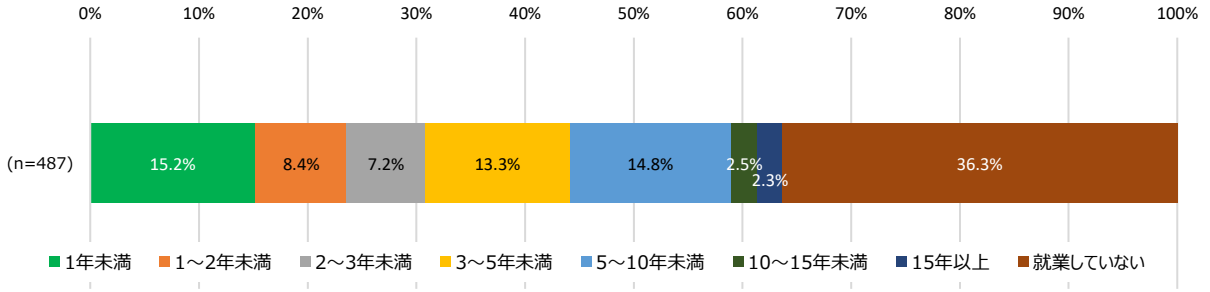


○１日１案件あたりのおよその平均報酬

地域通訳案内士の１日１案件あたりの平均報酬は、「15,000～20,000円未満」が23.5%で最も高く、次いで「20,000～30,000円未満」が18.1%、「3,000円未満」が13.0%。

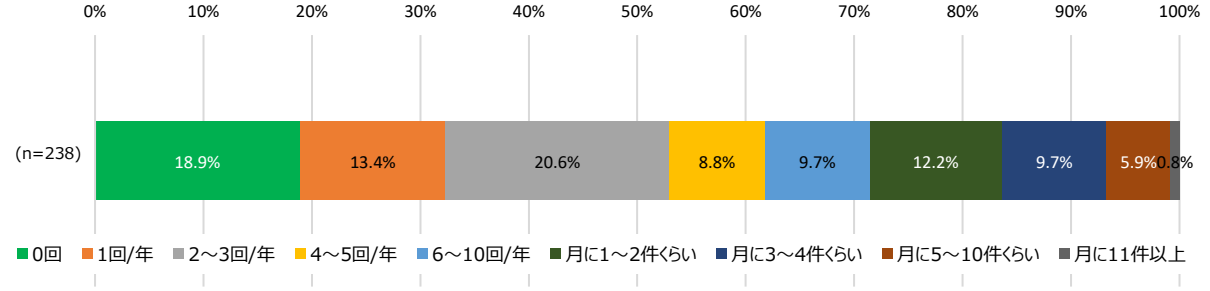
○通訳案内士の実務従事年数

「就業していない」が36.3%で最も高く、「就業していない」を除くと、「1年未満」が15.2%と最も高く、次いで「5～10年未満」が14.8%となっている。一方、最も低いのは「15年以上」で2.3%であった。



○通訳案内の実務従事頻度（直近１年間のペース）

地域通訳案内士の実務従事頻度（直近１年間のペース）は、「2～3回/年」が20.6%と最も高く、次いで「0回」が18.9%、「1回/年」が13.4%となっている。

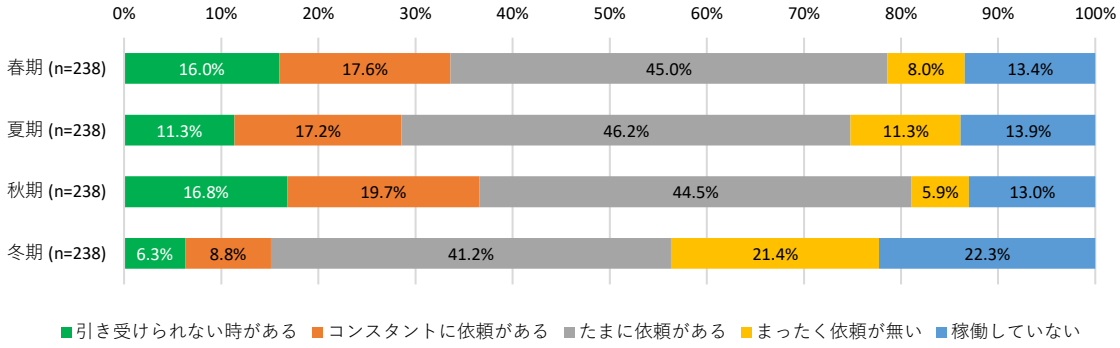


通訳案内士の稼働実態

- 地域通訳案内士の案内業務の機会は、１年を通じて「たまに依頼がある」が最も高い。
- 案内業務内容のTop3は「施設やスポット内でのガイド」、「団体ツアーへの同行」、「富裕層のご旅行ガイド」。
- 案内業務の依頼は、「旅行会社からの依頼・紹介」が最も多い。

○案内業務の機会が多い時期

〈春季（ 3～ 5月）〉は、「たまに依頼がある」が45.0%で最も高く、次いで「コンスタントに依頼がある」が17.6%となっている。
〈夏季（ 6～ 8月）〉は、「たまに依頼がある」が46.2%で最も高く、次いで「コンスタントに依頼がある」が17.2%となっている。
〈秋季（9～11月）〉は、「たまに依頼がある」が44.5%で最も高く、次いで「コンスタントに依頼がある」が19.7%となっている。
〈冬季（12～2月）〉は、「たまに依頼がある」が41.2%で最も高く、次いで「稼働していない」が22.3%となっている。



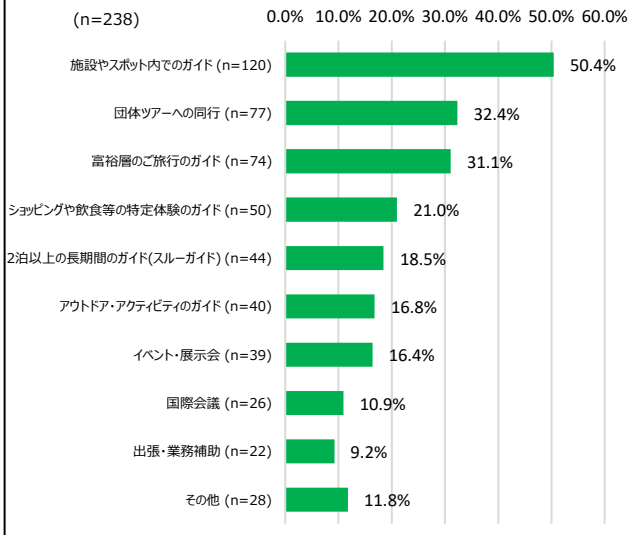
○案内業務の内容として、多いもの

地域通訳案内士の案内業務の内容のTop3は、「施設やスポット内でのガイド」（50.4%）、「団体ツアーへの同行」（32.4%）、「富裕層のご旅行のガイド」（31.1%）となっている。Bottom3は、「出張・業務補助」（9.2%）、「国際会議」（10.9%）、「その他」（11.8%）となっている。

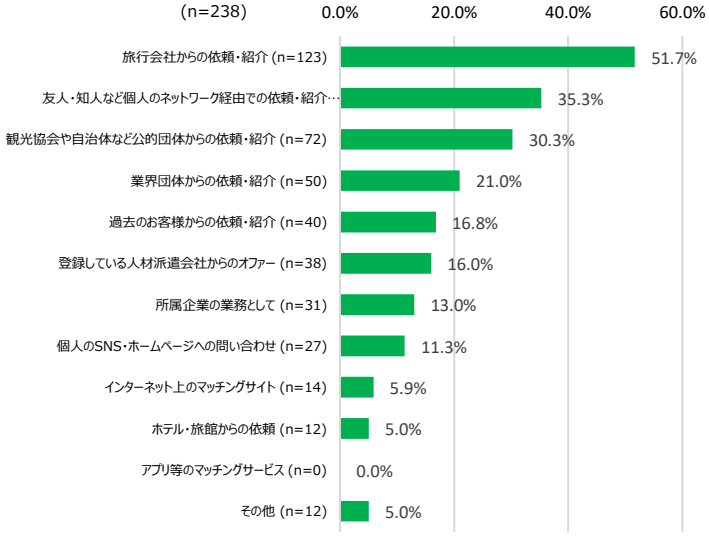
○業務を引き受ける際、どこからの依頼が多い

地域通訳案内士の案内業務の依頼元のTop3は、「旅行会社からの依頼・紹介」（51.7%）、「友人・知人など個人のネットワーク経由での依頼・紹介」（35.3%）、「観光協会や自治体など公的団体からの依頼・紹介」（30.3%）となっている。また、「業界団体からの依頼・紹介」は21.0%、「過去のお客様からの依頼・紹介」は16.8%となっている。

案内業務の内容として、多いもの（複数回答）



業務を引き受ける際、どこからの依頼が多い（複数回答）

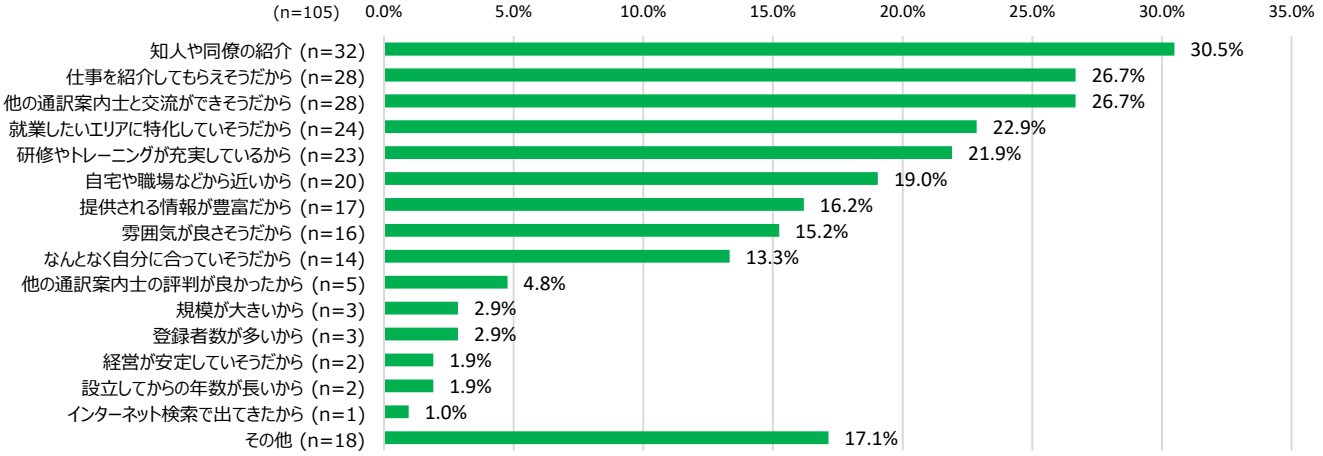


業界団体への所属状況

- 地域通訳案内士の2割超が、通訳ガイドを主な会員とする団体に所属している。

○団体に所属・登録していますか
地域通訳案内士の通訳ガイドを主な会員とする団体への所属は、「所属・登録している」が21.6%、「所属・登録していない」が78.4%であった。

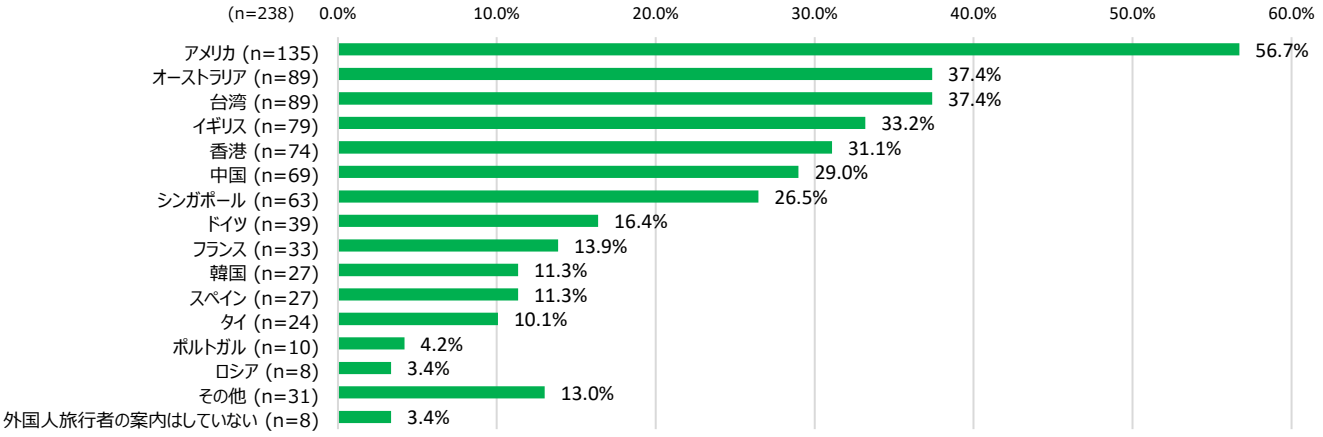
○所属・登録した理由
地域通訳案内士が団体の所属・登録した理由のTop3は、「知人や同僚の紹介」（30.5%）、「仕事を紹介してもらえそうだから」（26.7%）、「他の通訳案内士と交流ができそうだから」（26.7%）となっている。一方、団体の歴史や規模については、「設立してからの年数が長いから」は1.9%、「規模が大きいから」は2.9%と比較的低い。その他「インターネット検索で出てきたから」は1.0%であった。



訪日外国人客の動向

- 通訳案内の対象となる国・地域で最も多いのは「アメリカ」であった。
- 国別の業務の増減で〈とても増加している〉のは「ロシア」が最も高い。

○訪日外国人旅行者の主な国・地域
地域通訳案内士の通訳案内の対象となる国・地域のTop3は、「アメリカ」（56.7%）、「オーストラリア」、「台湾」ともが（37.4%）となっている。一方、Bottom3は「ロシア」（3.4%）、「ポルトガル」（4.2%）、「タイ」（10.1%）となっている。



○対象となる国・地域別の業務の増減
〈とても増加している〉で「その他」を除いたTop3は「ロシア」（12.5%）、「アメリカ」（11.9%）、「ドイツ」（7.7%）となっている。また、〈増加している〉で「その他」を除いたTop3は「韓国」（44.4%）、「オーストラリア」（38.2%）、「アメリカ」（37.8%）となっている。一方、〈減少している〉が最も多いのは、「中国」で33.3%であった。

研修・自己研鑽

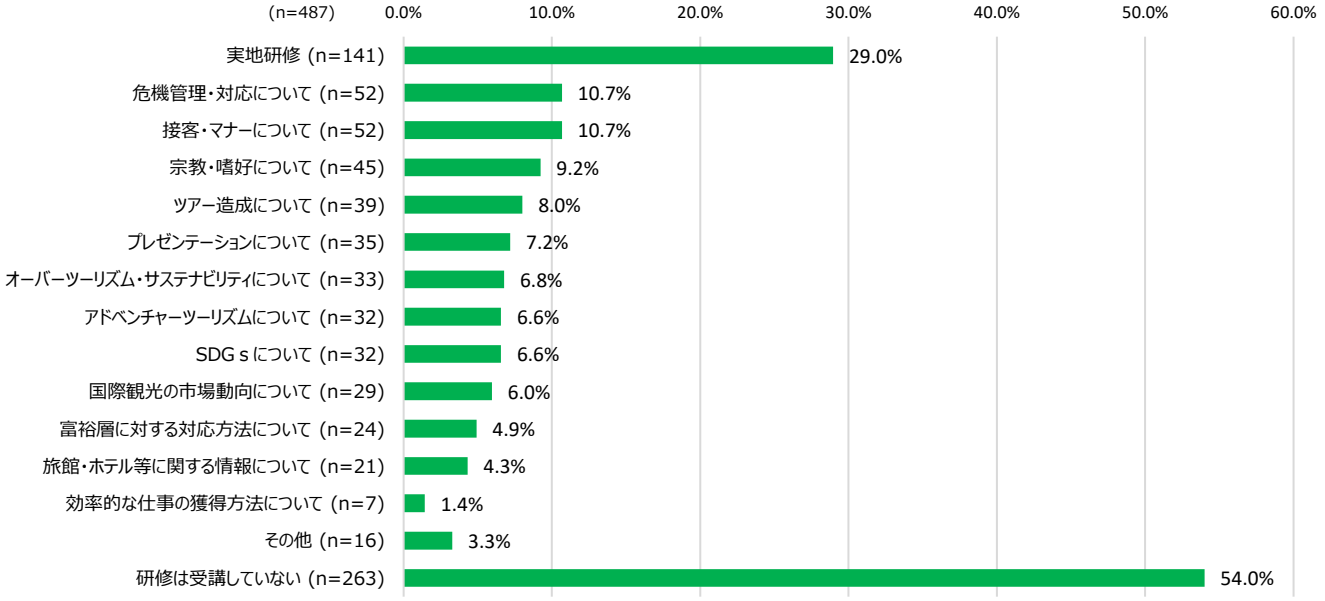
- 直近１年間に受講した研修分野は、「実地研修」が最も高く、次いで、「危機管理・対応について」と「接客・マナーについて」が高い。
- 今後受講したい研修分野は、「実地研修」が最も高く、次いで「効率的な仕事の獲得方法について」が高い。
- 取得している他の資格は、「上記の資格は取得していない」を除くと、「旅程管理主任者」が最も高い。

○直近１年間に受講した研修分野

地域通訳案内士が直近１年間に受講した研修分野のTop3は、「研修は受講していない」（54.0%）を除くと、「実地研修」（29.0%）、「危機管理・対応について」と「接客・マナーについて」が共に（10.7%）となっている。

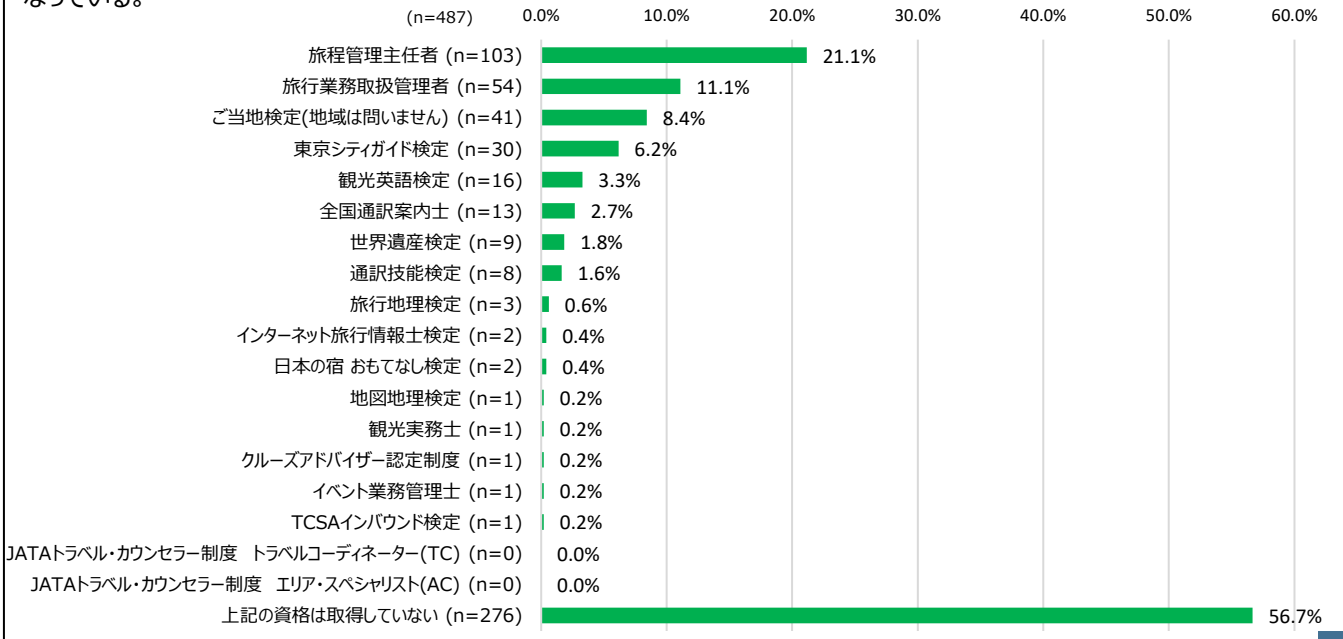
○今後受講したい研修分野

地域通訳案内士が今後受講したい研修分野のTo3は、「実地研修」（50.1%）、「効率的な仕事の獲得方法について」（30.6%）、「富裕層に対する対応方法について」（28.7%）となっている。



○取得している他の資格

地域通訳案内士が取得している他の資格のTop3は、「上記の資格は取得していない」（56.7%）を除くと、「旅程管理主任者」（21.1%）、「旅行業務取扱管理者」（11.1%）、「ご当地検定（地域は問いません）」（8.4%）となっている。

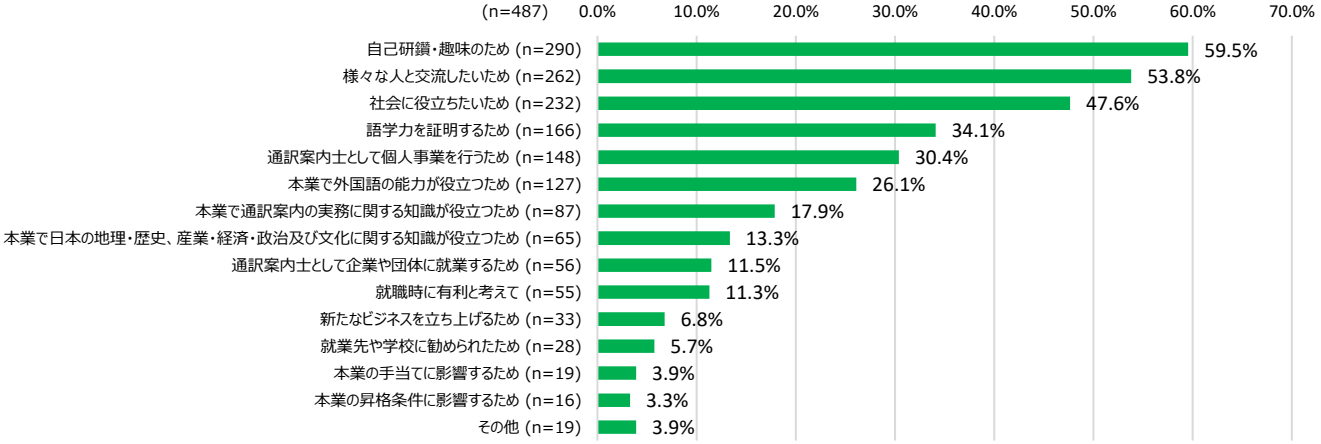


資格取得経緯

- 「通訳案内士として個人事業を行うため」に資格を取得した人の割合は全国が30.4%となっており、就業を視野に入れて受験する人の割合は、およそ３割程度となっている。

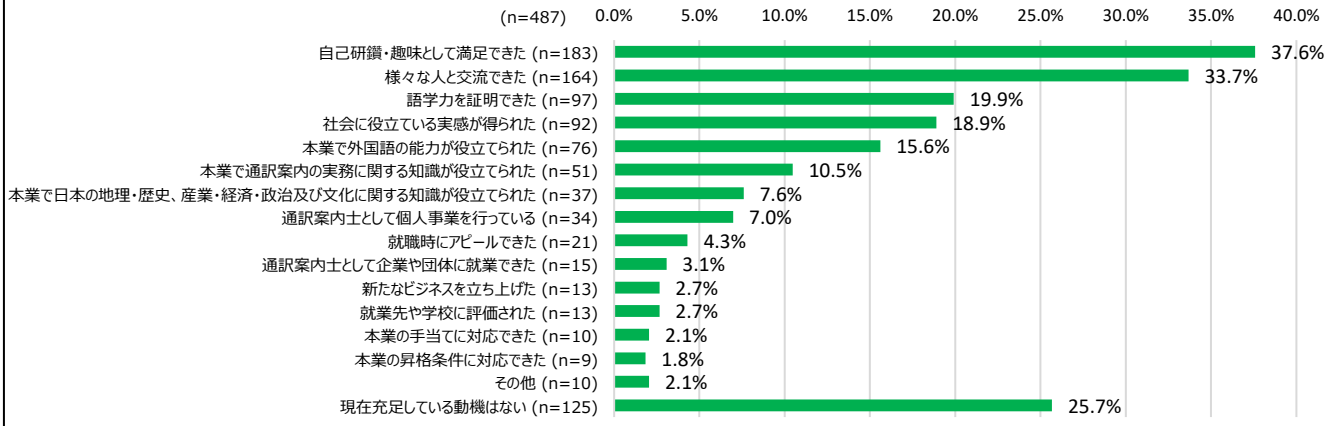
○通訳案内士の資格を取得した動機

地域通訳案内士の資格を取得した動機のTop3は、「自己研鑽・趣味のため」（59.5%）、「様々な人と交流したいため」（53.8%）、「社会に役立ちたいため」（47.6%）となっている。「通訳案内士として個人事業を行うため」は30.4%であった。



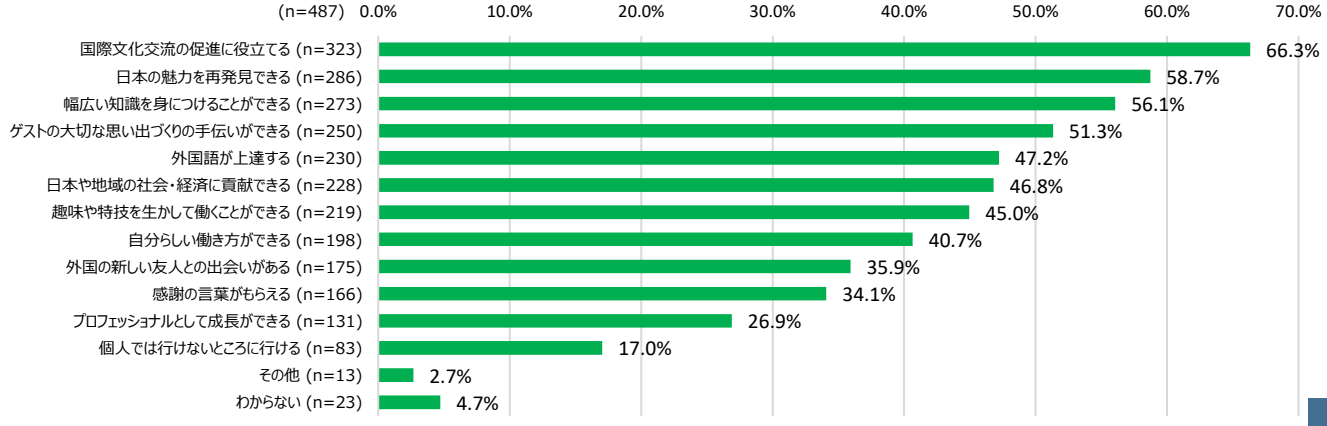
○充足していると思うもの

前問の通訳案内士の資格を取得した動機について、現在充足しているもののTop3は、「自己研鑽・趣味として満足できた」（37.6%）、「様々な人と交流できた」（33.7%）、「現在充足している動機はない」（25.7%）となっている。「通訳案内士として個人事業を行っている」は7.0%であった。



○魅力・やりがいを感じること

全国通訳案内士が魅力・やりがいを感じることのTop3は、「国際文化交流の促進に役立てる」（66.3%）、「日本の魅力を再発見できる」（58.7%）、「幅広い知識を身につけることができる」（56.1%）となっている。

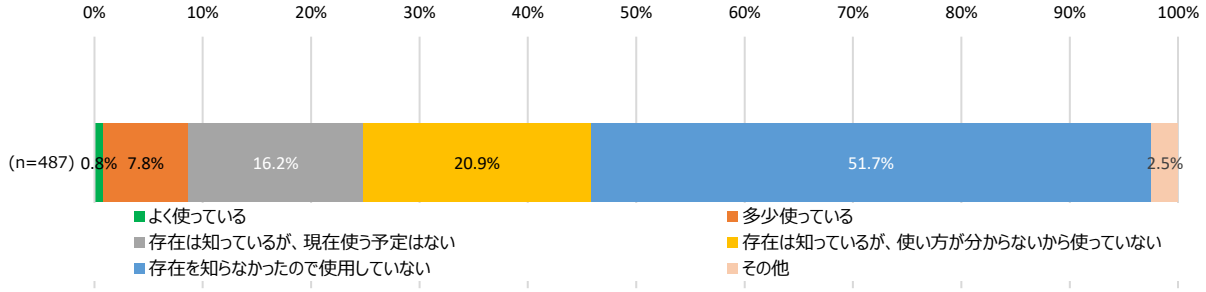


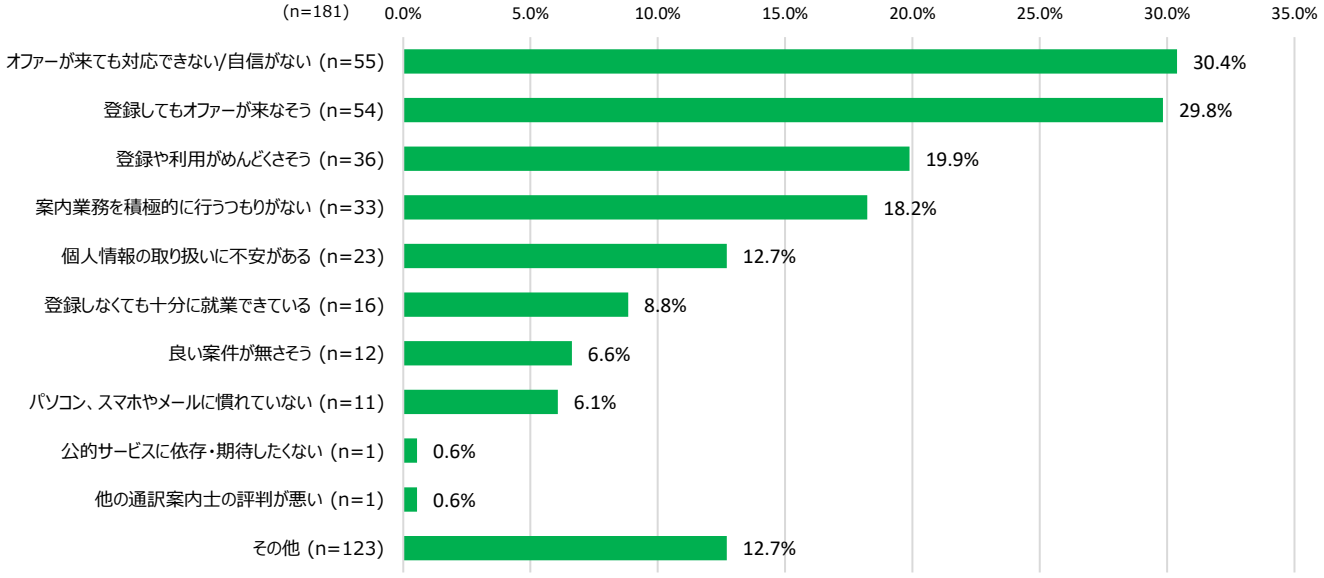
「通訳案内士登録情報検索サービス」の利用状況

- 地域通訳案内士の「通訳案内士登録情報検索サービス」の利用状況は、「使っている（よく使っている＋多少使っている）」が8.6%で、１割に満たない。
- 使わない理由は、「オファーが来ても対応できない/自信がない」が最も高い。

○「通訳案内士登録情報検索サービス」の利用状況

地域通訳案内士の「通訳案内士登録情報検索サービス」の利用状況は、「存在を知らなかったので使用していない」が51.7%と最も多い、次いで「存在は知っているが、使い方が分からないから使っていない」が20.9%、「存在は知っているが、現在使う予定はない」が16.2%となっている。一方、「よく使っている」は0.8%、「多少使っている」は7.8%で、合計すると「使っている（よく使っている＋多少使っている）」は8.6%となる。



○「通訳案内士登録情報検索サービス」を使用しない理由

地域通訳案内士の「通訳案内士登録情報検索サービス」を使用しない理由のTop3は、「オファーが来ても対応できない/自信がない」（30.4%）、「登録してもオファーが来なそう」（29.8%）、「登録や利用がめんどくさそう」（19.9%）となっている。